

**臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同  
出生・発達分科会（第26期・第11回）  
議事要旨**

1. 日 時 令和6年9月30日（木）17:00～18:00

2. 会 場 オンライン会議（zoom）

3. 出席者（五十音順）

高橋尚人、（以上、会員）

武藤香織、米村滋人、石崎優子、古庄知己、柘植あづみ、船曳康子、水口 雅、水野紀子（以上、連携会員）

4. 議事録作成者 高橋 尚人

5. 議事概要

石崎優子連携会員より、「社会的入院、社会的養護の子どもたち」のタイトルのもと、「社会的養護を要する子どもたち」「社会的入院とは」「社会的入院を解決するために」「施設と里親・養親」「医療者による海外の里親・養親支援」の項目で、委員が長年にわたり取り組んで来た調査結果を中心に解説をしていただいた。

実施された調査として、2015年9月の大阪小児科医会被虐待児養育環境検討委員会の一次調査及び2016年3月の二次調査、さらに平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業の被虐待児の入院に関する社会的状況調査（全国調査）について説明がなされ、被虐待児の社会的入院が全国に広がる大きな課題であることをお話しされた。これらの結果に基づき、大阪府小児科医会から厚生労働省に対し要望書が提出され、その後、国会で審議された内容についても解説があった。次に、それらの解決策の一つとしての里親、養子縁組について、実施された里親・養親に対する調査、里子・養子の診療経験に関する小児科医の意識調査について説明があり、最後に、海外の状況についても説明があった。解決が難しい課題だが、これらの子どもたちを育む環境が当の子どもたちが望んでいるものなのか今後も検討が必要と結ばれた。

その後、参加者から様々な質問や意見があり活発な意見交換となった。この分科会で今後検討を進める上で忘れてはならない重要な課題であり、大変貴重な発表となった。

以上